
三ツ星小5年1組での出来事～小学生探偵司編?～

ざらめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三ツ星小5年1組での出来事〜小学生探偵司編？〜

【コード】

N0959V

【作者名】

ぞらめ

【あらすじ】

秋分も近い秋のある日、司は、近所にある白雪宮記念公園に呼び出される。そこでは、司の知らない様々な計画が実行されていた。。。

司への挑戦状（前書き）

登場人物紹介は省きますので、初めての方は三ツ星小シリーズをまず、お読み下さい。尚、都合により、このお話の最終章を投稿してから1週間後、三ツ星小シリーズは非公開とさせて頂きます。

司への挑戦状

(えーっと、ここでいいんだよな。よしっ！)

司は、三ツ星小の近くの公園、白雪宮記念公園の前で、そう意気込んだ。その訳は・・・遡ること1週間前。

(カタツ)

司が家(もちろん豪邸)に帰り、郵便受けを開けると、中には真っ白な封筒が入っていた。封筒には送り主の名前が書いておらず、ただ、西園寺司様、と印刷されていた。司は不思議に思い、辺りを見回した。しかし、人影は見えない。

(まあ、とりあえず、中身を見てみよう。)

司はオートロックの扉を開き、大理石の玄関に足を踏み入れた。

封筒の中には、1枚の紙が入っていた。それには印刷の文字で次のように書いてあった。

(小学生探偵西園寺司君、こんにちは。突然のお手紙に、さぞ驚いておられることでしょう。しかし、恐れることはありません。私はひよこのように善良な人間ですから。今回は、司君に挑戦をしたくお手紙を差し上げました。つきましては来たる9月18日午前8時、白雪宮記念公園へお越し下さい。お仲間もお誘いしてお待ちしております。)

その手紙に従い、今、司は白雪宮記念公園の前にいるのだ。

名探偵の助手

「あれ、司っちじゃん！」

気づけば、すぐそばに貴っちがいた。

「あ、どうしたの？」

「いや、名探偵の助手になってくれとかいう手紙が来てさ、その手紙に従ってここに来ただけど、もしかして名探偵って、司っち？」

貴っちは嬉しそうに言った。司は、

(こいつ、意外と単純だなあ)

と思った。少し照れ臭かった。

「かもな・・・じゃあ、行くか。」

「え、でもでも、助手は5人いるって手紙に書いてあったけど。」

「ふん。多いんだな。じゃあ待って・・・。」

「・・・司く〜ん！貴く〜ん！」

司の言葉を遮って、何人かが八モったような声がした。

揃った助手

やって来たのは、樹、琴葉、桃、あざみの4人だった。

「お、おはよう。た、貴君。」

「ところで、どっちが探偵で、どっちが助手？」

「あ、えっと、今日はよろしく……。」

「なんか、色んな意味で楽しそうな組み合わせになったね！」

思い思いに挨拶をすると、女子は早速自分達の世界に入り込んだ。

「歩く順番は当然、2列で、司君と桃、貴君と樹、私とこつとんでいいよね？」

「賛成賛成！」

「それはダメ！」

「こつとんが樹と代わってくれたらいいけど。」

「って、ストップストップ！」

司はすぐに止めに入った。

「歩く順番なんてどうでもいいだろ？早く行こうぜ。」

かくして、6人の珍道中が始まった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0959v/>

三ツ星小5年1組での出来事～小学生探偵司編?～

2011年10月10日02時27分発行